

「世の罪を取り除く神の小羊」 ヨハ1:19～34

1. はじめに

(1) イエスの公生涯の開始

①バプテスマと誘惑は、連続した出来事である。

*神の子

*主のしもべ

②その直後のイエスの行動は、ヨハネの福音書だけに記されている。

③今日の箇所、神の国運動の中心が、ヨハネからイエスに移る。

(2) 世の罪を取り除く神の小羊 (A. T. ロバートソンの § 26、27)

① § 26 「サンヘドリンに対するヨハネの証し」 19～28 節

② § 27 「イエスをメシアと認識するヨハネ」 29～34 節

2. アウトライン

(1) ヨハネの証し (19～28 節)

(2) メシアの登場 (29～34 節)

3. メッセージのゴール

(1) ユダヤ人たち (19 節)

(2) パリサイ人 (24 節)

(3) 神の小羊 (29 節)

このメッセージは、ヨハネからイエスへの移行について学ぼうとするものである。

I. ヨハネの証し (19～28 節)

1. 第一の問い (19～20 節)

「ヨハネの証言は、こうである。ユダヤ人たちが祭司とレビ人をエルサレムからヨハネのもとに遣わして、『あなたはどなたですか』と尋ねさせた。彼は告白して否まず、『私はキリストではありません』と言明した」

(1) サンヘドリンについて

①ローマから権限を委託された自治組織。司法、行政、立法機関。

②70名の議員と1名の議長(大祭司)

③3種類の構成員

- * 祭司長 (サドカイ派)
- * 律法学者 (パリサイ派)
- * 長老 (一般人の代表)

- (2) メシア運動 (神の国運動) に対するサンヘドリン (ユダヤ議会) の対応
- ① 代表団を派遣し、それが正当なものであるかどうかを判断する。
 - ② 「ヨハネの証言」とは、それに対してヨハネがどう答えたかということである。
 - ③ エルサレムからの代表団であることが、3度にわたって記載されている。

* 19 節、22 節、24 節

- (3) メシア運動の3段階

- ① 黙って観察する段階
- ② 審問の段階

* 代表団はバプテスマのヨハネに種々の質問をしている。

- ③ 結論を出す段階

- (4) 審問の内容 「あなたはどなたですか」

- ① ヨハネが授けている洗礼についての質問
- ② ヨハネの自己宣言についての質問

- (5) ヨハネの回答

「彼は告白して否まず、『私はキリストではありません』と声明した」(新改訳)

「彼は公言して隠さず、『わたしはメシアではない』と言い表した」(新共同訳)

- ① ホモロゲオウという動詞を2回使っている。強意。
- ② 「エゴウ・エイミ・ウーク・クリストス」(I am not the Messiah.)
- ③ ヨハネの福音書の中では、イエスは7回「I am …」と語っている。

2. 第2の問い (21 節 a)

「また、彼らは聞いた。『では、いったい何ですか。あなたはエリヤですか』。彼は言った。『そうではありません』」

- (1) この質問の背景には、マラ 4 : 5 の預言がある。

「見よ。わたしは、【主】の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす」

- ① バプテスマのヨハネをエリヤの再来と考えていた人たちがいた。

(2) ヨハネの回答

「そうではありません」

①「エイミ・ウーク」(I am not.)

3. 第3の問い(21節b)

『あなたはあの預言者ですか』。彼は答えた。『違います』

(1) この質問の背景には、申18:15がある。

「あなたの神、【主】は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない」

①「あの預言者」とは、メシアのことである。

②しかし、「あの預言者」をメシアとは別の人物と考える人もいた。

(2) ヨハネの回答

「違います」

①「ウー」(No.)

②ヨハネの回答は、先に行くほど言葉数が少なくなっている。

4. 第4の問い(22~24節)

「そこで、彼らは言った。『あなたはだれですか。私たちを遣わした人々に返事をしたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか』。彼は言った。『私は、預言者イザヤが言ったように「主の道をまっすぐにせよ」と荒野で叫んでいる者の声です』。彼らは、パリサイ人の中から遣わされたのであった」

(1) 彼らは、サンヘドリンに回答を持って帰る必要があった。

①「祭司とレビ人」(19節)とは、サドカイ人のことである。

②ヨハネの福音書には、サドカイ人という呼称は出てこない。

*神殿崩壊以降に書かれている。

③代表団の中には、パリサイ人も含まれていた。

④サンヘドリンが派遣したことは、パリサイ人が派遣したのと同じこと。

⑤「あなたは自分を何だと言われるのですか」

(2) ヨハネの回答

①ヨハネは自分自身を、「荒野で叫んでいる者の声」と紹介した。

*イザヤ書40:3の引用。

*ヨハネは「声」であり、イエスは「ことば」である。

*ヨハネは、メシアの先駆者としての自分の使命をよく理解していた。

(例話) 第3回聖書フォーラムキャンプ 「I am not the Missiah.」

5. 第5の問い (25～28節)

「彼らはまた尋ねて言った。『キリストでもなく、エリヤでもなく、またあの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか』。ヨハネは答えて言った。『私は水でバプテスマを授けているが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。その方は私のあとから来られる方で、私はその方のくつのひもを解く値うちもありません』。この事があったのは、ヨルダンの向こう岸のベタニヤであって、ヨハネはそこでバプテスマを授けていた」

(1) 無資格の身でありながら、なぜバプテスマを授けているのか。

(2) ヨハネの回答

- ①水でバプテスマを授けているのは、メシアが現われるための準備である。
- ②メシアは確かにおられるが、まだ知られていない。
- ③メシアと比較すると、自分は奴隷以下の存在だ。

(3) 「ヨルダンの向こう岸のベタニヤ」

- ①ユダのベタニヤとは異なる場所である。
- ②エリコの東側
- ③現在では、イスラエルからもヨルダンからも、この場所に行ける。

II. メシアの登場 (29～34節)

1. その時が来た (29～31節)

「その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。私が「私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ』と言ったのは、この方のことです。私もこの方を知りませんでした。しかし、この方がイスラエルに明らかにされるために、私は来て、水でバプテスマを授けているのです」

(1) テンポの速い展開

①29節 「その翌日」

*サンヘドリンによる審問の翌日が、父なる神がメシアを示す日となった。

②35節 「その翌日」

③43節 「その翌日」

- ④2章1節 「それから三日目に」
- ⑤およそ1週間後にカナの婚礼となる。

(2) 「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」

- ①紀元1世紀のユダヤ人たちは、「小羊」について2つの概念を持っていた。
 - *過ぎ越しの小羊という概念。出エジプト12章から出てくる概念。
 - *メシア的小羊という概念。イザヤ53章から出てくる概念。
- ②ヨハネは両方の意味で、イエスを「神の小羊」と呼んでいる。

(3) 「私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ」

- ①イエスは人間としては、ヨハネよりも6か月後に誕生した。
- ②しかし、神の子としては、宇宙が創造される前から存在しておられた。
- ③イエスは人間性と神性の両方をお持ちになられた。
- ④ヨハネの奉仕は、すべてその方のためである。

2. 共観福音書の記録のまとめ(32~34節)

「またヨハネは証言して言った、『御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。「御霊がある方の上を下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である」。私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです』」

- (1) ヨハネの福音書には、イエスの洗礼の場面はない。
 - ①ヨハネは、イエスがヨハネから洗礼を受けたことを前提に書いている。
- (2) ヨハネの目撃情報
 - ①イエスの上に御霊が鳩のように天から下るのを見た。
 - ②「それで、この方が神の子であると証言しているのです」(34節)

結論：

1. ユダヤ人たち(19節)

- (1) エルサレムから使者を遣わしたのは、「ユダヤ人たち」である。
- (2) 新約聖書は反ユダヤ的書であるか。
 - ①ギリシア語で「ユーダイオイ」、ヘブル語で「イエフディム」

②これを「ユダヤ人たち」と訳すと、無意識の内にユダヤ人はメシアに敵対したというメッセージを伝えることになる。

③この言葉は、文脈によって注意深く解釈する必要がある。

(3) 3つの解釈が可能である。

①ユダ族の人たち

②ユダヤ民族(ユダヤ教徒たち)

③ユダヤ地方に住む人々(出身者たち)

*ヨハネは③の意味で使っている。

*エルサレムに住む宗教的指導者たちのことである。

2. パリサイ人(24節)

(1) バビロン捕囚期以降のユダヤ教

①捕囚により神殿が破壊され、祭司階級は職を失った。

②70年間(捕囚)で、律法を学ぶことが民族統一の鍵であるとの認識が生まれた。

③捕囚から帰還して以降の重要人物は、エズラである。

*彼は祭司であった。

*と同時に、律法学者(書記)でもあった。

④第二神殿の建設後、祭司階級の職業が復活した。サドカイ人の源流。

⑤エズラの教えに触発される人々が現れた。パリサイ人の源流。

*パリサイ派は、いわば平信徒の運動として発展した。

*イエスの時代、パリサイ人は約6,000人いた。

⑥サンヘドリンを構成していたのは、サドカイ人とパリサイ人である。

(2) メシア待望の高まり

①1世紀の最初の30年くらい

②ローマからの解放を達成する政治的メシア像

③超自然的登場

④あるいは、ダビデの家系から登場する王

(3) バプテスマのヨハネは異端児である。

①エルサレムの神殿とは無関係の所で、育った。

②正式なラビ教育を受けていない。

③無資格で働きを展開している。

*神殿やシナゴグに通うユダヤ人を自分のところに集めている。

*いわば、羊泥棒である。

④既成勢力から見ると、反発を覚える人物であるが、認めないわけにはいかない。

⑤審問を開始した時点では、サンヘドリンの立場は中立である。

⑥ヨハネは、日本の歴史で言えば、信長のような人物である。

*信長のような人物が登場する背景に、鉄器による農業生産の高まりがある。

*国力が飛躍的に増し、商品流通経済が発展する。

*そして、鉄砲が、戦争の形態を一変させた。

⑦日本の霊的壁を打ち破る可能性はあるか。

*万人祭司という概念の再確認

*ヘブル的解釈

*字義通りの解釈

3. 神の小羊 (29 節)

(1) イエスの自己認識

①神の子

②神のしもべ

(2) バプテスマのヨハネのメシア認識

①「神の子」(34 節)

②「世の罪を取り除く神の小羊」(29 節)

(3) 使徒たちのメシア認識

①1 コリ 5 : 7

「新しい粉のかたまりのままにしているために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです」

②1 ペテ 1 : 18~19

「ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです」

(4) アンケートにあった質問

①サタンは、訴える者である。

②根拠なく、訴える者である。

(例話) キャンプでの5人の受洗者の証し (福音の3要素)